

CASBEE 広島 2016年版
カルビー株式会社 広島新工場新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.2	
Q1 室内環境					0.30		-	3.4	
1 音環境				3.2	0.15		-	3.2	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-		
1.2 遮音				3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-		
1.3 吸音		床・天井に吸音材(タイルカーペット・ロックウール吸音板)		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				2.7	0.35		-	2.7	
2.1 室温制御				3.3	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		空調ゾーニングがされており冷暖房の選択可能		4.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.9	0.25		-	3.9	
3.1 昼光利用				3.6	0.30		-		
1 昼光率		昼光率 2.01%		4.0	0.60		-		
2 方位別開口				-	-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30		-		
1 昼光制御		ブラインド+庇		4.0	1.00		-		
3.3 照度				3.0	0.15		-		
3.4 照明制御		照明状態監視機能有 スケジュール運転可能		5.0	0.25		-		
4 空気質環境				3.9	0.25		-	3.9	
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面に採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.6	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は汚染源のない方で排気口と6m離れている		5.0	0.33		-		
4.3 運用管理				4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-	3.9	
1 機能性				3.8	0.40		-	3.8	
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40		-		
1 広さ・収納性		一人当たりの執務スペースが12㎡以上		5.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応		OA機器用のコンセント容量が50VA/㎡以上 フロア間通信可能		5.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30		-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高2.9m以上で窓が設けられている		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上の休憩室を設置		4.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				4.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		取り組みにおいて該当する項目数が標準以上である		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30		-	3.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウムダクトなど長寿命化を図っている		4.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.2	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		重要機器は耐震クラスAとする		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		高感度情報通信設備 精密機械の地下空間への設置を避けている		4.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			4.4	0.30	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.5mm以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.0432	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
4500N/㎡以上							
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック方式とし維持管理がしやすい	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック方式とし維持管理がしやすい	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	仮設スペースの確保 更新・修繕時に建物機能を維持できる状況	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
美観形成基準を満たしている							
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			4.0	0.13	-	-	4.0
太陽光パネルの設置							
3 設備システムの高効率化			3.4	0.63	-	-	3.4
[BEI][BEIm]: 0.76							
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水便器 節水水栓を使用している							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
-							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
再生クラッシュラン 塩ビシート ロックウール化粧吸音板							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
躯体と仕上げ材が容易に分別可能 LGS OAフロアの採用							
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
ビニル床接着剤							
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が1未満)を用いた断熱材	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
可能な限りCO2の排出量を低減							
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止			4.0	0.25	-	-	
排出濃度が基準値の90%以下に抑えられている							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	室内および室外にゴミの多種分別回収可能なストックスペース有	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たし広告照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	